

# 第1回都心三宮における感染症に強い空間ガイドライン等検討会

## 議 事 録

日 時：令和3年7月9日（金曜）10時00分～12時00分

場 所：神戸市役所都心三宮再整備課会議室

出席者：小林委員、野澤委員、武田委員、八木委員、茅野委員（5名、順不同）

内 容：1. 開 会

2. 議 事

（1）検討会の運営について

（2）検討会の目的・視点

（3）コロナ禍の動向について

①ウィズコロナ・ポストコロナ社会に向けた国・学会の動向

②感染症対策の事例

③公共空間での取組について

（4）論点整理

（5）今後の予定

3. 閉 会

### 【配布資料】

- |     |   |
|-----|---|
| 資料1 | 都心三宮における感染症に強い空間ガイドライン等検討会開催要綱                  |
| 資料2 | 都心三宮における感染症に強い空間ガイドライン等検討会委員名簿                  |
| 資料3 | 検討会の目的・視点                                       |
| 資料4 | ウィズコロナ・ポストコロナ社会に向けた国の動向                         |
| 資料5 | 新型コロナウイルス感染対策としての空調・衛生設備の運用について<br>(空気調和・衛生工学会) |
| 資料6 | 感染症対策の事例  |
| 資料7 | 公共空間での取組について                                    |
| 資料8 | 論点整理  |

参考資料1 「新しいまちづくりのモデル都市」として13都市を選定（国交省プレス）

### 【議事要旨】

1. 開 会

- ・光平部長（神戸市）よりあいさつ。

## 2. 議 事

### (1) 検討会の運営について

- ・事務局より資料1に基づき、検討会開催要綱について説明。要綱第4条第1項により、市から小林委員を座長に指名
- ・以降、小林座長により議事進行。

### (2) 検討会の目的・視点

- ・事務局より資料3に基づき、三宮周辺の主な事業、国から「新しいまちづくりのモデル都市」に選定されたこと、検討会の目的、検討会の視点について説明。

### ～意見交換～

#### (野澤委員)

- ・検討会のタイトルに「感染症に強い」とあるが、コロナだけに着目するのか。それとも、コロナが収束する可能性がある中で、コロナ以外の感染症にも着目するのか。
- ・また、今年度とりまとめたとして、コロナがある程度収束した場合、アウトプットはどのように扱うのか。コロナがなくなったとしても感染症に強いまちのガイドラインとしていくのか。

#### (事務局)

- ・コロナに限定したものでなく、将来にわたって広く感染症に強いまちづくりにつなげたい。

#### (茅野委員)

- ・昔からインフルエンザのような感染症はあったが、感染力の強い新型コロナウイルス感染症の流行に対応できなかった。ウイルス変異の可能性もあり、我々の社会がレジリエント(柔軟性ある状態)で強靱な対応力があるか、という大きな文脈の中でこの話はあるのだろう。

#### (小林委員)

- ・感染拡大の規模は様々だが世界的には10年20年のスパンでの感染症の流行はあり得ることで、今回の新型コロナだけに限定せずに有事に強いまちづくりは重要であろう。

#### (事務局)

- ・ガイドラインの運用は長期にわたることを想定している。スケジュールは、秋から年内にとりまとめを行いたい。その後、必要に応じて運用を更新していきたい。

### (3) コロナ禍の動向について

#### ① ウィズコロナ・ポストコロナ社会に向けた国・学会の動向

- ・事務局より資料4に基づき、国交省「デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会」の中間とりまとめについて説明。
- ・小林座長より資料5に基づき、空気調和・衛生工学会の新型コロナウイルス感染対策としての空調・衛生設備の運用について説明。

#### ② 感染症対策の事例

- ・事務局より資料6に基づき、感染症対策の事例について説明。

#### ③ 公共空間での取組について

- ・事務局より資料7に基づき、公共空間での取組について説明。

#### (4) 論点整理

- ・事務局より資料8に基づき、感染症対策の事例等を踏まえた論点整理について説明。

#### ～意見交換～

##### (茅野委員)

- ・対象エリアはどこになるか。

##### (事務局)

- ・三宮周辺が中心と考えているがどの範囲にするのかは、制限の強さと合わせて考える必要がある。

##### (野澤委員)

- ・「感染症に強い」ということの到達点はどのレベルまでのものを求めるのか。クラスターを発生させないのか、個人で感染症になりにくいレベルなのか。
- ・順天堂大学と清水建設の共同研究の事例のように、接触感染、空気感染の場合など、感染経路を分けないといけないのではないか。

##### (茅野委員)

- ・全部やると大変ではないか。目下コロナで大変なのであるからコロナに集中してよいのではないか。不衛生だから発生するような感染症は、三宮のようなきれいな都市では発生しないと考えてよい。コロナは人間が動いてうつる病気だから、呼吸器の感染に対策を集中しても、他を除外していることにはならないと思う。まずは、コロナについて進めれば、問題ないと考える。

##### (野澤委員)

- ・接触、飛沫、マイクロ飛沫、空気の4つの感染経路のうち、新型コロナに該当するのはどれか。

##### (茅野委員)

- ・新型コロナは全て該当するが、結核のような完全な空気感染は入れなくてよい。空気感染を入れると相当厳しくなる。ゴホンと咳をしてそれが空気に漂い、付着したものに触って感染する。感染経路は、飛沫、マイクロ飛沫、接触感染が対象になる。
- ・実は公衆衛生的に言えば、知見の更新があったかといえばほとんどない。都市でのコロナ対策は、2020年の初めから変わっていない。
- ・やるべきことは変わらず、マスク、手洗い、距離をとることだけ。それをやらないといけないことはわかっているが、やるのが難しいだとかやりたくないなど、人々がやる・やらないの問題がある。そことどう向き合うかという問題はある。

##### (野澤委員)

- ・医療の立場から都市空間などのハード面で困っていることはあるか。

##### (茅野委員)

- ・きれいな空間で感染症はそんなに起こっていないと思う。言い過ぎかもしれないが、最先端から外れたところで、感染が起きている可能性がある。再整備をすとなると距離をとろう、地面にドットを置こうなど皆一生懸命にやる。建物の中でもエントリーポイントで熱を測って消毒してマスクするのを徹底して最新の設備を導入して自主的に対策をするので大きな問題は起こらない可能性が高い。既存施設で綺麗でないところは、感染拡大が起きている可能性がある。
- ・三宮のまちなかは綺麗でも、外から入ってくる人を調べる必要がある。駅にサーモメーターを置くのか、それができるのか、入ってくる人たちがどうかですることが全然違ってくる。

##### (小林委員)

- ・重要な問題であるが都市としての水際対策となるとまちづくりとしてどこまでできるのか難しくなると思う。
- ・きれいな建物でクラスターが起きにくいと言えるかもしれないが、極端に換気の悪い密閉空間でクラスターが発生した事実もある。近くでゴホンと咳をすれば感染リスクゼロでないので、都市や建物としてここまですれば大丈夫という明確な線引きは難しい。一方で最低限ここまでやっていれば汚い環境ではない・蔓延しやすい建物ではないことを提示しておくことは必要と考える。

(武田委員)

- ・前段として、神戸のビジョンや市民へのメッセージがあるほうが重要なのではないか。また、コロナで社会が改めて学んだこととして、大きいものとしていかに人間は自然と共生するか、マイクロで言うと感染対策の空間づくりだが、もう少し都市のスケールでどう考えるのか。幅を広げるといかに健康的であるかという視点も考えてもよいだろう。減災の考え方のように感染症になることはやむなしとして、感染症になった人がいかにそれ以外の人と含めて健康な状態でまちを運営できるのか。ヘルシーシティとして戦略やビジョンを作り、打ち出してはどうか。それを踏まえて、ガイドラインを策定するという方法もある。

(事務局)

- ・三宮再整備自体が「人が主役のまちをつくる」という大きなコンセプトの中で取り組みを進めているので、何か新しくするということは考えていない。ただ、三宮再整備のコンセプトには当然感染症対策は入っていなかったため、それをどう盛り込むかという観点になっている。

(武田委員)

- ・人が主役ということ言えば、人が生き活きとしていることは大事である。

(小林委員)

- ・ガイドラインをつくったとして、義務か任意かについていかがか。

(茅野委員)

- ・ガイドラインについて医療の観点からは最低基準を作り守らせるということが重要と考える。

(小林委員)

- ・その場合においては、エビデンスをもった数値と詳細な制度設計が必要になることが課題である。

(野澤委員)

- ・民間オフィスビルは自分たちの価値を上げるために、感染症対策に取り組むことになるのでそれに対してわざわざ義務を課すことはない。
- ・小さな既存施設・店舗に対して、どのような施策をとるか。建て替えやリノベーションの促進をすすめるために、ガイドラインとインセンティブをセットにするのがよいのではないか。インセンティブ付与に対しては、コロナだからという理由でそこまでしていいのか、冷静に公共性を意識したほうがよい。
- ・義務化のために最低基準を突き詰めたら陳腐化して、結局それでいいのかという話になって難しいのではないか。

(武田委員)

- ・ハイテクになればロースピリットになって、むしろローテクのときにハイスピリットが求められる。人の気持ちが変わることの方が効果が大きいこともある。「こういうことをやっている」ときちんと言わると、人の行動が変わるのではないか。意識が変わると行動が変わる。

(茅野委員)

- ・(啓発の) ポスターとか地面のデザインとか所々に思い出させる仕組み・機会をつくる必要がある。

(小林委員)

- ・市民へメッセージを伝えることや仕組み作りが重要ということだろう。

(八木委員)

- ・基準を強制すると、ついていけない人が出てくる。先行して取り組む施設と、自主的にできない施設に、2本立ての施策が必要である。現在、メーカーもコロナ対策の設備が標準になってきており、設計する側もそれが標準だろうと先行して提案に含めているのが実情。先行して動いているものに対して、それが標準だとすれば全体の底上げにつながっていくのではないか。
- ・そのスピードについていくために、神戸市の CASBEE の制度などを総動員して有効活用すべき。

(野澤委員)

- ・感染症は色々なところで対応しなければいけないのに、(エリア設定について) なぜ三宮からなのか。補助金を入れるとなればなおさら、対外的に説明できるエリア設定が必要。

(小林委員)

- ・エリア設定は義務か任意かというものと連動していて、義務で全体(の広域な範囲)となれば処理が追い付かなくなるリスクも考え得る。一方で任意であればどこまで対象にするのか。モデル地区として重点的に地区設定するというのはあると思う。

(八木委員)

- ・重点地区があれば、改修などを考えるときに追随する気持ちが出てきて、他の地域も取り組みやすくなる。

(事務局)

- ・今回は都心三宮再整備の取り組みの一環であるため、対象エリアは都心の範囲内で検討することを考えている。

(茅野委員)

- ・仕組みは文化に合ったものでよい。「義務か、任意か」よりも結果が重要である。欧米はマスクを義務にしなければいけなかったが、日本はそんなことはなかった。どこに重点を置くかについても、都心三宮がこれから再整備されていくなかで、そこをどうするかというところに集中すると、より話はしやすいのだろう。
- ・ただ、一番脆弱な人たちを見落としてはいけない。感染しやすい場所があるんだと(いうことを見落としてはいけない)。

(野澤委員)

- ・屋内、屋外だけでなくセミパブリックをどのようにするかの視点も重要である。

(事務局)

- ・三宮再整備では、公共空間と沿道建築物が一体となるように整備を進めている。今後も民間と取り組んでいきたい。

(小林委員)

- ・今対策をがんばっている既存建物も評価に含まれるのかというのも課題である。エリア全体のどういった用途の建物を対象にするのか、どういう規模のものを含めるのか、次回以降に具体化してほしい。

(茅野委員)

- ・ソフトの視点を盛り込んだほうがよい。
- ・「フレキシブル」という言葉について注意深く扱ったほうがよい。「ただ曖昧にしたり決めたことをいつでも変えられる」とするのではなく、何についてフレキシブルなのか、感染の状況によって変えるフレキシビリティなのか、何についてどうフレキシビリティなのかしっかりと決めておいたほうがよい。

(武田委員)

- ・屋外空間について3点指摘したい。
  - ① まずは土地利用のフレキシビリティについてである。低未利用地の活用について、JR三ノ宮駅前のストリートテーブルはよい例である。低未利用地をうまく活用できている。神戸市のまちなか防災空地制度は良い制度であるが、その都心版がほしい。土地を回してうまく公共空間を作っていく仕組みができるといい。
  - ② にぎわい至上主義からの脱却が必要になる。来訪者数に頼るのではなく、コミュニケーションの質・幅の向上が求められる。都心の空間の質を指標化できるようになれば、なおよい。密は問題とされているが何の密なのか、コミュニケーションの密は大事である。
  - ③ 最後に屋外の風についても大事である。都市内での風環境・風の道など、都心に快適な風環境をどのようにとり入れていくことを検討してはどうか。

(5) 今後の予定

(事務局)

- ・次回、屋内空間についてはガイドラインの素案を提示する。屋外空間についてももう少し内容をブレイクダウンして、事例等を提示する。

3. 閉 会

以上